

CONTENTS

地域会だより・Bulletin Board ————— 1

「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大の影響について」アンケート調査報告 ① ——— 2

「電腦設計論壇」が目指すもの #02 高木秀太 氏 ——— 4
山上 健

コロナ禍に思う ————— 5
奥井 康史・石橋 剛

JIA に入会して ————— 6
山田 正司・細井 昭男・長田 芳幸
高瀬 元秀・田口 純子・林 義秀・柿本 哲

自作自演
私の仕事 02：都市の木質化 ————— 7
加藤 昌之

自作自演 241 ————— 7
神谷 勇雄

保存情報 第 227 回
登録有形文化財：設楽町立田峯小学校 ————— 8
富田 正行

編集後記 ————— 8
羽柴 順弘・森 哲哉

子どもの学びと建造環境の好循環を目指して ——— 9
田口 純子

表紙：服部高志 (HATTORI DESIGN)

地域会だより 今後の予定

■静岡地域会

・ 10/23 第 5 回役員会 (WEB 同時開催)

■愛知地域会

・ 10/ 毎金曜日 名古屋市立大学授業「建築家の仕事」(第 2～6 講座)
・ 10/23 第 5 回役員会 (WEB 同時開催)

■岐阜地域会

・ 10/24 第 4 回役員会 (オンライン方式)

■三重地域会

・ 10/23 第 5 回役員会 (オンライン方式)
第 4 回例会、会員研修会 2 (環境セミナー)

Bulletin Board

講演会

JIA 国際委員会主催 Webinar
クロスボーダーアーキテクト

《越境建築家》たちとの対話シリーズ

— 国境を越えて生きる建築家 8 人に聞く —

日ごろなかなか話を聞く機会がない海外在住の日本人建築家の方々と対話を行う全 8 回の Webinar を開催します。海外に渡った理由、日本との違い、海外に在住し建築設計を行う上での難しさ等に加え、コロナ危機に象徴される現在世界が抱える多くの地域・領域にまたがる課題について、国境を越えて活躍する建築家の方々の視点からお話を伺います。乞うご期待です！

- 第 1 回：2020 年 10 月 16 日 (金) 村尾忠彦氏 (楨日設計)
- 第 2 回：2020 年 11 月 20 日 (金) 河本雅子氏 (Arch-R)
- 第 3 回：2020 年 12 月 18 日 (金) 伊藤廉氏 (REN ITO ARQ.)
- 第 4 回：2021 年 1 月 22 日 (金) ユウ・イナモト氏 (Bjarke Ingels Group)
- 第 5 回：2021 年 2 月 19 日 (金) 丹羽隆志氏 (Takashi Niwa Architects (NIWAA))
- 第 6 回：2021 年 3 月 19 日 (金) 村芙実氏 (TERRAIN architects)
- 第 7 回：2021 年 4 月 23 日 (金) 大賀行雄氏 (フューチャーリンク)
トゥ イアン氏 (フューチャーリンク)
平木秀和氏 (フューチャーリンク)
- 第 8 回：2021 年 5 月 21 日 (金) ディック・オランゴ氏
(Colliers International Japan K.K.)

場 所：ZOOM を用いたオンライン講演

受講料：無料

定 員：各講演 500 名 (定員に達し次第締切)

参加方法：当日、下記のアドレスにアクセスしてご参加ください。

<https://us02web.zoom.us/j/82313332709>

問い合わせ：contact@jia-intl.org



「一本のイチジクの木」

「建物内は全く違う世界」それがミラノの建築の魅力の1つ。古い映画館の長い通路を奥に進むと、こだわりの小さなレストラン。親切なオーナーと暗い階段を下り中庭に。ぱっと明るく広がる空、一本のイチジクの木。

隣接する教会壁面には 1400 年代のフレスコ画。ファシズム弾圧時代に封鎖されながらも、木は高い壁に負けじと光に向かい、今では州で一番の高さになりました。「置かれた場所で咲く」励まされた方もいらしたのではと想像します。



服部 高志 (JIA愛知)
HATTORI DESIGN

「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大の影響について」 アンケート調査報告 ①

会報誌「ARCHITECT」では、8月号から新型コロナウイルス感染症拡大の影響について記事にしておりますが、より多くの会員の皆様の実態を把握するため、アンケート調査を実施いたしました。8月号へ同封しアンケート用紙を配布したほか、WebからもGoogleフォームにて回答可能とし受け付けました。2020年8月末までに回収した結果を報告します。

■調査対象：JIA 東海支部全会員 ■配布数：449 ■回収数：70

- 質問項目
- Q1 会員種別を教えてください。
 - Q2 所属地域会を教えてください。
 - Q3 あなたの年代を教えてください。
 - Q4 新型コロナウイルス感染症拡大による業務への影響はどの程度ありますか。
 - Q5 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、どのような不便を感じましたか。(複数回答可)
 - Q6 新型コロナウイルス感染症拡大の対策や工夫などしていることがありましたらお書きください。
 - Q7 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について、自由にお書きください。
「今後の思い」「新しい生活」「建築の取り組み」「今後JIAがどうあるべきか」など

Q1 Q2 会員種別・所属地域会

	正会員	シニア会員	協会員	計
静岡地域会	5		2	7
愛知地域会	35	1	14	50
岐阜地域会	3			3
三重地域会	7		3	10
計	50	1	19	70

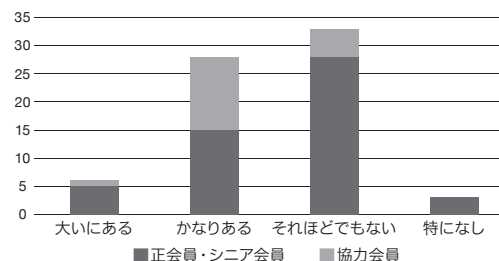
Q3 年齢

40代	16
50代	33
60代	13
70代	7
80代	1
計	70

Q4 新型コロナウイルス感染症拡大による業務への影響はどの程度ありますか。

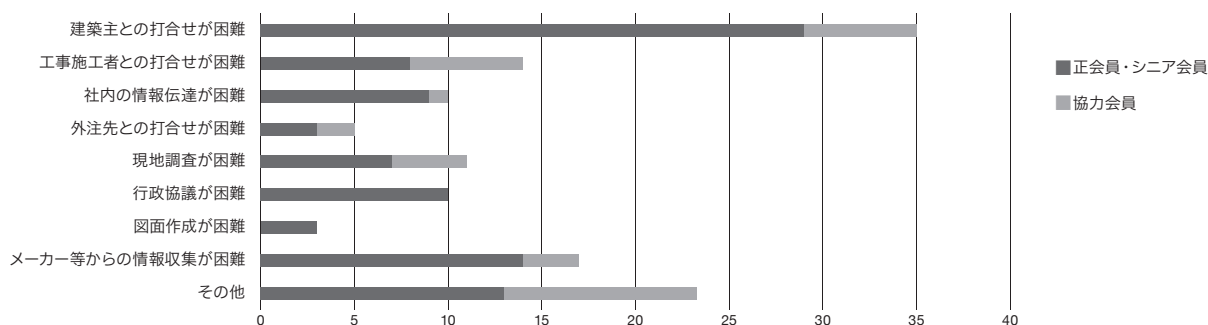
	大いにある	かなりある	それほどでもない	特になし	計
正会員・シニア会員	5	15	28	3	51
協会員	1	13	5	0	19
計	6	28	33	3	70

正会員・シニア会員はばらつきがありますが、協会員の多くは「かなりある」との回答でした。



Q5 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、どのような不便を感じましたか。(複数回答可)

	建築主との打合せが困難	工事施工者との打合せが困難	社内の情報伝達が困難	外注先との打合せが困難	現地調査が困難	行政協議が困難	図面作成が困難	メーカー等からの情報収集が困難	その他
正会員・シニア会員	29	8	9	3	7	10	3	14	13
協会員	6	6	1	2	4	0	0	3	10
計	35	14	10	5	11	10	3	17	23



正会員・シニア会員は、「建築主との打合せが困難」が最も多く、次いで「メーカー等からの情報収集が困難」が多いことがわかります。選択肢が協力会員向けでなかったようで、「その他」の選択が多かったです。「その他」は、以下のようにものでした。協力会員は、営業の困難さについてのコメントが多いようです。

正 会 員

- とにかく、従来通りに事が進まないのが、大変でしたね。そして今も。
- 施主が住みながらのリフォームでは、感染への配慮が必要
- 遠隔授業が公認された。
- 高齢のクライアントからの仕事が無期延期となった。
- 受注機会の減少
- 契約などが延期になっている。
- 多少の不便はあるが困難まで至らず
- 遠方の現地への移動が困難
- 会社訪問が気にしながらとなっている。
- 講座でマスク着用、フェイスガード着用で行っていると、とにかく暑く、声が聞き取りにくい。
- 工程遅れが発生
- 資材の搬入が滞る。
- 建設計画の中止

協 力 会 員

- 設計担当者への製品提案・説明が困難
- 従来のような訪問営業が難しい。
- 事務所へ PR がしにくい。
- 設計の先生方がリモートワークなどで面談できず製品 PR ができない。
- 新規の営業活動が難しい。
- 情報発信の場が減少
- 設計者との打合せに制約有り
- 訪問活動がしにくい。
- 設計事務所との打合せが困難
- 資格試験の中止及び延期への対応

Q6 新型コロナウイルス感染症拡大の対策や工夫などしていること

以下のようなコメントがありました。(抜粋) ※類似した回答は割愛させていただきます。

- テレワークと Zoom や Slack の活用。マスクの配布。アルコール消毒の携帯などスタッフに提供。
- 感染予防のため、マスク着用・消毒液・透明パネル使用
- 打合せ回数を最低限度とする。
- 在宅勤務の推奨。ノートパソコンの買増。職員の消毒、手洗い、うがい、マスク着用の徹底。食堂の座席配置。WEB 会議の奨励。時差通勤。接待を伴う夜の食事会禁止。プライベートでも大人数での食事会自粛。
- 公共交通機関の利用を控え、自家用車を使用している。昼食は弁当を持参し外食は極力避けている。
- 率先してリモート会議での打合せ等で対処している。車での移動時は乗車人数の制限等、公共交通機関の利用自粛。
- 建築計画で疫学的な面で配慮せざるを得ない。
- 予防の周知、家族等近親者との接触、ゴルフを含む各種会合の自粛、リモート活用。
- 時差出勤
- 職員の勤務はリモートワークにて対応している。社内の情報伝達は「teams」にて行っている。職員の時差勤務を認めている。発注者、工事施工者との打合せをオンライン会議で対応している。
- 会議や会合をリモート参加としている。また、飲み会への参加を控えている。その他、契約延期などで業務が滞っているため IT 補助金を利用し、BIM の導入申請をしたところ申請が受理されました。この機に BIM をマスターしたいと考えています。
- 計画と設計段階に関与した病院に対して、感染症対策についての提言をしている。患者の来院から入院までのプロセスの見直しや動線の分離、感染症患者ゾーンへの入出経路の確保、空調換気システムの点検と変更など、多くの検討すべき事項がある。そのほか高齢者福祉施設のリニューアル案件の計画に参画しており、通院サービスゾーンや入居者介護ゾーンの、これからのあり方を模索しながら、提言ができるかに傾注している。
- リモート打合せを現場監理などに取り入れている。
- 第二波で感染者増加中、基本ですがマスク、手洗い、うがいを徹底しています。外食も制限してほとんど家または事務スペースで単独行動する努力をしています。
- 業務的(本業)には社内での業務が主なので「外出」しないことは通常業務内であり、影響なし。社内でもマスクは着用しない。(個人事務所)本業以外はマスク着用のうえ、入退出時のアルコール消毒は欠かせない。公共交通機関を使用するので、密は避け、座席は出入口近辺を利用している。
- 基本的なマスク・手指消毒・混雑時を避けた公共交通機関の利用などの他は実施していない。また、遠距離通勤の場合の自宅作業も推進しています。身近に感染者(わからないが)、発症者がいないこともあり、危機意識が薄いと感じています。社内で感染者が出れば事務所の閉鎖あるいは業務のストップにもつながりかねないので、今一度注意を喚起し、対策を考える必要があると思っています。
- 先生方へメールを使用して新製品の PR を行っています。(既知の設計先生方場合はメールで PR 可能ですが、新規訪問ができないので支障があります)
- 出社時の検温・テレワークを併用し出勤率 50% に抑える・マスクの常時着用・社内の座席の間引きとソーシャルディスタンスの確保・社内の一方通行
- 営業と受注業務社を分けて仕事をしている。机と机の境界にアクリル板を設置。
- 在宅勤務化で会社の出席率を下げる。執務エリアの机配置を変更し、ソーシャルディスタンスの確保とアクリル板による仕切り設置。社内すべての会議を WEB 化。
- 積極的にお客様への訪問ができない為、テレワークを活用し、メールにて営業活動を実施しています。

Q7の結果は11月号以降に続きます

「電腦設計論壇」が目指すもの

#02 高木秀太氏



高木秀太氏

愛知地域会の研修委員会では、オンラインの講演会シリーズ「電腦設計論壇」を開催している。2020年7月17日に開催された第2回では、講師に合同会社高木秀太事務所の高木秀太氏をお招きした。高木氏は建築家であり、同時にプログラマーでもあるという立ち位置で建築に関わっており、自身の事務所のミッションを「設計の業務をコンピューターの手で助けること」と説明する。

冒頭、「つくるしくみ えらぶしくみ」というダイアグラムが提示された。作るルールを決め、作ったものを並べて見て、良いものを評価し、それを元にまた新しいものを作る。全ての設計活動にはこのサイクルが存在するという仮定のもと、図の矢印の部分のしくみ作りが自身の活動領域であると高木氏は位置づけている。

以降の講演では、このダイアグラムに沿って氏のこれまでの仕事を紹介された。

「東京タワートップデッキ内装」「YOUTV川崎駅サテライトスタジオ」の2作品は「つくるしくみ」の例である。前者は某アーティストの、後者は某建築家の作品であるが、いずれも高木氏が形態生成のプログラムを提供している。プログ

ラムは単に形態を決めるだけではなく、現実に成立させる為の検討(納まり・構法・加工図等)までを含んだ内容となっている。

「えらぶしくみ」の例としては「Building Environment Desig.com」「都市解析プログラム『公園の可能性』マイニング」の2つが挙げられた。1つ目は高木氏が手がけるwebサイトで、氏が実務で用いている建築や都市の環境解析の手法が紹介された。2つ目は、公園の再開発に際してポテンシャルがありそうな公園を探る試みで、webスクレイピングにより収集した膨大なデータを用いて公園の魅力を分析している。

ここまでで紹介されたのは「つくるしくみ」か「えらぶしくみ」のどちらか一方を手掛けた仕事であったが、高木氏はそれらを別々に提供することに違和感を覚えていたという。その両方をセットで提供できた例として次の2つが紹介された。

「ヤギのいる庭」は、畑を核とした地域コミュニティの形成を図るプロジェクトである。通路の配置、モジュールのサイズ、屋根の密度・向き・角度の組合せからなる25,000ほどのパターンが「つくるしく

み」によって生成されたが、この数を人間がひとつひとつ比較して評価するのは困難である。そこで、構造・環境・施工の3項目について各パターンを自動で採点する「えらぶしくみ」が作られた。決定案は、コンピューターによる評価を参考に、設計者の暗黙知的な評価も加味して選定された。

「某ゼネコン多目的最適解シミュレーション」は、各階の矩形平面を少しずつ回転させて積層した形態の集合住宅のスタディであり、「つくるしくみ」によってひねり具合を変えた様々なパターンが生成された。構造面ではひねりが少ない方が高評価で、環境面ではひねりが多くなると高評価になる傾向が見られたという。「えらぶしくみ」では、トレードオフの関係にある2つの評価項目について多目的最適解を用いた検討を行って候補が絞り込まれ、2項目を共に満足するような形態とするか、それとも1項目だけを重視した形態を選ぶか、或いはさらに詳細な評価を行っていくか、という選択肢が設計者へ提示された。ここでは設計者は機械的に処理できる検討に時間を割く必要はなく、本当に重要な判断のための検討にだけリソースを集中できる状況が生まれている。

このほか、講演では大学や企業での教育活動についても紹介があり、また質疑応答も行われたが、ここでは割愛する。

以上のように講演を振り返ってみると、高木氏が提供するスキルはプログラミングであり、その仕事は基本的にはプログラマーのそれであると理解できる。ただしそのプログラムは建築的な思考方法と知識を持ち合わせていなければ作成できないものであり、プログラミング自体を設計行為の一部だと解釈することも可能である。その意味で高木氏は建築家の職能領域が拡張されたその周縁に立っているとも言えよう。領域の中心付近に位置取る設計者にとっても、電腦の時代に於ける職能を考える上で示唆に富んだ講演であったように思う。



山上 健
山上建築設計

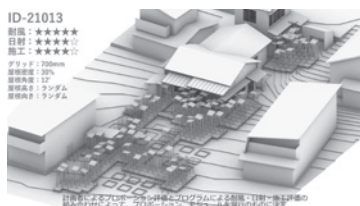


「つくるしくみ えらぶしくみ」(生成の仕組み 評価の仕組み)

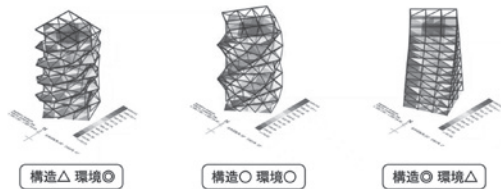


東京タワートップデッキ内装

©KAZ SHIRANE



ヤギのいる庭 (SDレビュー2018入選)



「某ゼネコン多目的最適解シミュレーション」

東海卒業設計コンクールの再出発に向けて

このリレートークの先陣を切った矢田前東海支部長の記事に、JIA 東海支部の主要4事業のひとつとして東海卒業設計コンクールがあげられています。そのバトンを受けて書くことにします。

25回続いた東海卒業設計コンクールは、そもそもこのコロナ禍で中止になったのではなく、残念ながら昨年開催されていません。様々な検討により決定されたことだと思いますので、そこには触れません。

今年2月、全国卒コンが本部事業に正式に位置づけられたことを契機に、矢田前支部長の呼びかけで、東海卒コン再開に向けて有志による検討を始めました。本来、中止に至った課題も踏まえ検討すべき点が多々あったと思いますが、例年、前年末から準備を始めるところ、2月末からのスタートでは、そもそも論を論じる時間もなく、とにかく2019年度卒業生にコンクールの機会を用意することを最優先に準備を進め

ました。楢本雅好さん、中渡瀬拓司さんを中心に、審査方法・作品募集方法・提出物の検討、審査会場の確保、審査員の選定・依頼、審査日の決定、フライヤーの作成、事業費など様々な検討や調整を進めていただき、ほぼ1か月で、5/30の審査会が開催できるところまで準備が進みました。3月末には東海支部での承認も得られ、あとは計画を実行に移すのみと思った矢先、コロナ禍に見舞われました。これを受け、Web審査なども検討しましたが、大学も休校し、皆が行動制限される中、この短期間では応募者の準備すら難しく、今年の開催を断念しました。

全国卒コン東海支部担当もしていますので、そちらの報告もします。例年通りの対面審査会は開催できませんが、公開Web審査を10/3に開催することになりました。段取りが例年と大幅に異なるため、5か月ほど検討し、ようやく開催の目途が立った

ところ。当日はライブ配信予定ですので、みなさんご参加ください!

何より学生に東海および全国のコンクールへの参加機会を用意できなかったことは残念ですが、東海卒コンが一旦途絶え、本来、改めて意義から問い直すべき時に、コロナ禍による新たな課題が加わり、ひとまとめに検討できることを幸いと捉え、前向きに仕切り直してできればと思います。

1年延期になったので、改めて公益社団法人JIAが主催する卒コンの意味をみなさんと考えていければ・・・と思っていたら、もう10月!このリレートークでバトンを投げられたのは、走り始めろという合図だったということに、この原稿を書き上げる最後になってようやく気づきました。皆様、ご協力をお願いいたします!

奥井 康史 (JIA 愛知)
石本建築事務所



コロナ禍でいろいろと考える

この原稿を書いている今は9月に入ったところだが、世界中のコロナ禍は一向に収まりそうにない。世界中で何十億という人々が、今までとは全く違った世界に生きているかのような感覚を味わっていることと思う。私自身、なにかこれまで生きていくうえで基本的なこととしてきたことが大きく変わってしまうかのような感覚だが、なにをどう考えたらいいのか、「新しい生活様式」とはなんなのか、なかなか言葉にするのも困難である。コロナもそうだが、温暖化による気候変動がもたらす豪雨や森林火災といった毎日のニュースを見ていると、自然環境を破壊し続けることでしか成り立たない資本主義社会はもうすでに限界まで来ているということを実感する。

さて、コロナ禍での静岡地域会の活動もいろいろと影響が出ている。他の地域会と同様、役員会が一部オンラインになった。

自分は役員会を運営する立場にあるので、当初はいつもの会議テーブルにノートパソコンとウェブカメラを設置して、従来通りの対面の役員会がメインで、希望者はオンラインでも参加できるということから始めた。いずれは全員がオンライン参加になると当然のように思っていたが一向にならなそうなので、最近は自分も率先してオンライン参加としている。モニターに並ぶ参加者のうちのひとつが事務局からの映像となるが、事務局画面に映る顔は小さくて判別できないし、誰が発言しているかもわからないことが多い。対面じゃないと雰囲気とかニュアンスとかが伝わらないよね、なんてことも聞くが一番伝わってこないのは事務局から参加する人達であるということも指摘しておきたい。今の状況では参加者全員がオンラインというのがベストだと思う。

地域会が行う事業だが、対面でのイベントの開催はほぼ不可能という状況下で、勉強会等のオンライン開催を模索しているところだが、興味さえあれば場所を選ばず参加できるセミナー等がたくさんあるなか、従来以上にプレッシャーのようなものもあるのか、なかなか企画が前に進まないでいる。

コロナ禍というのは、自分の人生にとっても大きな出来事であるし、地域会活動にも反映させたいと考えるが、はじめに述べたようにコロナに対して何をどう考えたらいいのかわからないという状態でもあり、もう少し時間がかかりそうだ。

石橋 剛
(静岡地域会 幹事運営局長)
(有)石橋修建築設計室



JIA に入会して



山田 正司(JIA 愛知)

株三橋設計 名古屋事務所

〒461-0001 名古屋市東区泉2-27-14
東海関電ビルディング5F
TEL 052-937-5573 FAX 052-937-5576

本年名古屋事務所の代表として、入会させていただくことになりました。新型コロナが感染拡大する中、設計業界にも変革が求められ、仕事の進め方はじめ、どうしても以前から行われているやり方にとらわれがちです。すべての人が同じ環境で対応すべく得られた習慣は感染が去った後も、建築の次世代の可能性を開いてくれるだろうと思います。



細井 昭男(JIA 愛知)

株式会社都市造形研究所

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-6-27
EBSビル8F
TEL 052-972-6831 FAX 052-972-6832

これまで住民参加ワークショップによる設計・まちづくりに多く関わってきました。2020年、コロナはまちづくり分野にも大打撃を与えています。今、人と人との触れ合いが成り立ちません。ただ「ピンチはチャンス」の信念でこの状況を逆手に取りたいところ。だって地域の方と Zoom 会議だなんて1年前に想像できませんでした? 否応なしに私達は新しい時代に立っているようです。よろしく願います。



長田 芳幸(JIA 岐阜)

長田芳幸建築設計事務所

〒500-8211 岐阜県岐阜市 日野東7-4-5
TEL 058-243-1559 FAX 058-243-1559

昨年出身地岐阜で設計事務所を開設しました。住宅設計やよろず相談に応える中で家族や地域の人達と歓びを分かち合えたら幸いです。歩くのが好きで毎朝長良川の土手に上り鵜飼い大橋を折り返しています。メディアコスモスまで足をのばしたり、中山道ぎふ17宿を歩いて感じるの、自然と一体となった街路(公共空間)の魅力です。コロナ以後の「集まって人と出会う場所」のヒントになりそうです。



高瀬 元秀(JIA 三重)

タカセモトヒデ建築設計

〒519-0501 三重県伊勢市小俣町明野1708
TEL・FAX 0596-64-8635

設計事務所をはじめから10年あまり経過しました。独立当初は目の前の仕事をこなすことで手一杯でしたが、年齢も40歳を越え、社会的な活動に力を入れていかなければと思っていたところに、入会のお誘いをいただきました。コロナ禍において、どのような活動ができるのか手探りではありますが、諸先輩方に恥じめ活動を心がけていきたいと思えます。よろしく願います。

専門会員 転入



田口 純子(JIA 愛知)

名城大学 都市情報学部 助教

〒461-8534 名古屋市東区矢田南4-102-9
TEL 052-768-6419

この4月に現職に就き、関東甲信越支部から東海支部へ移籍して参りました。子どもや若者にむけた建築・都市環境の教育を顕彰する「ゴールデンキューブ賞」に関わらせていただいたご縁から、2016年にJIAに入会し、UIAの国際活動にも身を投じるようになりました。支部には子どもと建築をつなぐ意義深い実践をされている方が多々おられます。刺激的な環境で自らも成長していきたいと思えます。



JIA愛知 法人協力会員

パナソニックエコシステムズ(株)

営業部 住宅開発営業課 課長 林 義秀

〒486-8522 春日井市鷹来町4017
TEL 050-3787-2238 FAX 0568-83-8422

弊社は100年近く前の1928年頃から換気扇の生産を手掛け、おかげさまで累計生産台数はグローバルで2億台を突破致しました。昨今、「換気」への関心が高まっており、厚生労働省が公表した「新しい生活様式」でも、こまめに「換気」が推奨されています。他にも次亜塩素酸の力で除菌・脱臭を行うジアイノ等、IAQ事業を通じて、世の中に貢献したいと考えております。宜しくお願いいたします。



JIA三重 法人協力会員

株式会社 建築資料研究社/日建学院

三重支店 支店長 柿本 哲

〒510-0885 三重県四日市市日永3丁目2-30
TEL 059-349-0005 FAX 059-349-0006

株建築資料研究社/日建学院は、「業界に貢献する」を基本方針とし50年にわたり多くの建築士を輩出し、業界の人材育成に邁進し続けることができております。このたび、JIA三重に法人協力会員として、入会させていただきました。今後も、建築士を多く輩出し続けて建設業界に貢献していく所存でありますので、よろしくお願い致します。

都市の木質化

国立競技場などのオリンピック施設を木質化するなど、世界中で建築の木質化が進んでいます。背景には国際的な脱炭素化社会に向けての潮流であり、SDGs 活動や ESG 投資など世界経済社会の質的転換期で戻ることにはないです。

日本の木質化は法整備も技術開発も進んでおり、今後の需要開拓の推進が急がれます。多くの作品の技術データを公開することで速い普及が可能となります。20 数年続いている「木材活用コンクール」の歴代作品を見ると技術やデザインの可能性が格段に広がっていることがわかります。

我が社でも昨年 2 つの木造事務所ビルが竣工しました。事務所ビルは鉄骨



で作るのが一般的ですが木造化はコスト的に高くなります。2 物件とも木材業の施設なので理解はありました。特徴を挙げると「東海木材相互市場」は一般流通材を活用しながら新工法や CLT を使って大きな空間を構成しています。2 つ目は「ザイソウハウスビル」、在来工法だが木造 3 階建完全 ZEB の事務所ビル、高気密高断熱で CLT を利用しています。木造の特徴である温熱

環境を良くして省エネを図り、太陽光パネルと蓄電池で創エネによって ZEB を実現しています。

様々な手法で「都市の木質化」を目指しますが、コスト的に補助金の活用は脱炭素社会を早める有効な政策であり活用を勧めます。

加藤昌之 (JIA 愛知)

(株)加藤設計



自作自演 241

私の流儀

私なりの設計及び工事の手順

- ① 施主から依頼を受ける。
- ② 施主の想いを図面に反映する。
- ③ 工事業者を選ぶ。

どうしよう、自分の意志を理解できる(図面を読み解ける業者はほとんどいないだろう)工事業者をえらびたいが……しかしながら、たいていの施主は業者(懇意にしている)を紹介してくる。

なんとか意図を汲んでくれる、私の知り合いの業者を紹介する。

数社に(たいてい 3 社程)見積もり

を出させる。最低価格の業者に、合わせてもらい、その業者を選んでもらう。施主にも納得してもらう。

アトリエ事務所は、一人ないし数人で、すべての作業を行う、しかし、どんな設計でも携わるもの(設計屋 or 建築家?)はステキなものを造りたいと思っている。

大学卒業した頃には明るい未来を見続けていたが、思った程には設計事務所は儲からない。

人と接して話すことがあまり得意じゃないから技術系に進んだのに……しかし人と話すことは、鍛えられた(ちょっと楽しくなったのも、たしか)しかし、完成に近づくとつれ、変な空気が漂ってくる。

なぜ、あんな業者を選んだのか?追加料金がどうして高いのか?等々、これでいいと納得したのになと、こんなはずじゃない。エ〜〜

技術屋にとって相手の言葉を 100%

信じて、そのことに全力を尽くしても理解されない。

ついには訴えられる。あ〜〜あの蜜月の日々はなんだったの……と思いながらも必死に言い訳を考える。こんなこと望んでいない。オレはオレの設計をしたい。その時点で施主との心が離れていく。

しかし、なんだかんだ言いながら、それでも設計するのは楽しい!!!

昔、河島英五の「天秤ばかり」という歌があった。どちらか一方が重たいくせにどちらにも傾かないなんておかしいよ。

改めて文章にすると建築家の意味がわからなくなります。建築家をやめて設計屋に戻ろうかな。

しかし、この歳になって仕事ができる喜びを噛み締めています(妻に感謝♡)

神谷 勇雄 (JIA 愛知)

(有)設計室ユウアンドアベトウ



田峯小学校は一文字型の片側廊下式校舎となっている。外壁は下見板張りで正面中央に切妻造りの玄関を構える。今なお現役使用の木造校舎であるとともに、集落内の地域活動の拠点としても活用され親しまれている。特別教室棟は普通教室棟の西昇降口から渡り廊下を介して建つ。木造平屋建てで東面し、外壁は普通教室棟と同じく下見板張りとする。現在は図工美術室や理科室を配するが、元は畳敷きの裁縫教室などであった。普通教室棟とともに、昭和初期における山村の小学校の情景を今に伝えている。

現在児童数9名複式3学級、教員6名、事務職員1名、非常勤講師1名、給食調理員1名で、こどもたちにきめ細かく丁寧な学校教育が行われているのが感じられた。

こども歌舞伎／毎年2月第二日曜日、田峯観音境内で、地元住民でつくる田峯観音歌舞伎座保存会「谷高座(やたかざ)」と田峯小学校児童による素人歌舞伎が演



田峯小学校正面玄関

※保存情報 第169回にて鈴木利明様が「設楽町立田峯小学校普通教室棟」を取材されておりますが、NHK朝ドラ「エール」にて注目されている為、再度掲載させていただきます。

じられる。境内に現存する奉納歌舞伎(地狂言)の舞台は1863年に建築されており農村歌舞伎の資料としても貴重なもの。毎年この時期は寒く凍えるような冬の日となるが、会場は大勢の観客が詰めかけ、演者の熱演と観客の掛け声で大きな熱気に包まれる。毎年造られる竹の骨組みで見事に組み上げられる小屋組みも一見の価値があるのでぜひ訪れていただきたい行事である。

平成2年1月「青い目の人形里帰り訪問団」がデイトン市(オハイオ州)を訪問し、子供歌舞伎を上演したことがきっかけで、ラスキン小学校と姉妹校提携、現在も交流が続いており、日米文化交流などが評価され、2008年(平成20年)中日新聞社による中日教育賞を受賞した。

NHK朝ドラ「エール」の小学校口ケ地「旧門屋(かどや)小学校」が隣の鳳来町にあり、大正13年の建築で、昭和45年に廃校となったが建物はそのまま現代美



田峯小学校普通教室、左特別教室

術展などのイベント会場として今もつかわれていて、田峯小学校とほぼ同一形態の小学校なので併せて紹介させていただく。

年表

- ・1873年(明治6年) 北設楽郡段嶺村日光寺に第15番小学田峯学校として開校。
- ・1882年(明治15年) 北設楽郡第二学区公立小学田峯学校に改称。
- ・1927年(昭和2年) 現在地に移転して現校舎が竣工。アメリカ合衆国より青い目の人形「グレース」が寄贈され同校のマスコットとなっている。
- ・1941年(昭和16年) 段嶺村立田峯国民学校に改称。
- ・1947年(昭和22年) 段嶺村立田峯小学校に改称。
- ・1956年(昭和31年) 設楽町の成立により設楽町立田峯小学校に改称。
- ・2011年(平成23年) 木造校舎耐震化工事
- ・2012年(平成24年) 日本建築防災協会主催「平成24年度耐震改修優秀建築賞」
- ・2013年(平成25年) 「第21回愛知まちなみ建築賞」
- ・2014年(平成26年) 「設楽町立田峯小学校普通教室棟」「設楽町立田峯小学校特別教室棟」それぞれ国の登録有形文化財に登録。
- ・現在に至る。



所在地/愛知県北設楽郡設楽町田峯字下畑14地
 所有者/設楽町
 登録年月日/2014年4月15日 登録有形文化財(建造物)
 建物概要/木造平屋建て、銅板葺き
 建築面積/普通室棟/689㎡、特別教室棟/124㎡

富田 正行 (JIA 愛知)

(有)エム・プロダクツ



編集後記

●コロナ禍は未だに収まる見通しが立たないまま、ただ落ち着く時を待つしかない状況です。今月号のアンケート結果にもありますように、少なからず新型コロナウイルスの影響が出ているのではないのでしょうか。この状況下で学校の授業や会議、そしてクライアントとの打合せも急速にオンライン化に向かっていきます。しかし実際に体験すると利便性や効率性は感じつつも、人とのコミュニケーションが画面で隔てられていることに違和感を覚えずにはられません。また直に接しなれないと思疎通を図ることが困難だとも感じています。近い将来、新型コロナウイルスは収束に向かっていくと思われそうですが、終息するとは考え難い状況の中で、私自身どのようにオンラインと対面を両立

していくのか、手探り状態になるとは思いますが、変わりゆく状況を見極めながら前向きに最善の対応をしていきたいと思えます。(羽柴順弘)

●幹事長として、6月より編集会議(8月はZoom)に臨席しています。読者から立場が変わり、只々会議の手際の良さに感服しているところです。改めて紙面構成を見ると、会員のみならず、外部の執筆者や社会とも繋がる内容です。また、支部に ARCHITECT という媒体があり、コロナ禍でも発行されていることは大変誇らしいことです。

原稿を拝見しました。研修委員会によるオンラインセミナーが行われています。表紙連載(楽しみ!)、加藤昌之さんの「私の仕事」、入会や転入された方々のご紹介など。田口純子さんの記事「子どもの学びがより良い建造環境に返ってくる」という提言は明快です。

コロナ禍により様々なことが表面化しました。各

国の対応の違い、市民の反応や順応、環境に与えてきた負荷など。今月と来月号に会員アンケートが掲載されます。石橋剛さんの「リレートーク」とも併せて意見交換に繋がるよう期待しています。(森哲哉)

ARCHITECT

第385号

発行日 2020.10.1 (毎月1回発行)

定価 380円(税込み)

発行責任者 水野豊秋

編集責任者 川本直義

編集 東海支部会報委員会

愛知地域会ブリテン委員会

株式会社イゾミ内

ARCHITECT 編集部

岡崎市明大寺町荒井10番地

TEL (0564)21-2657 FAX 26-1792

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル

TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http : //www.jia-tokai.org/

子どもの学びと 建造環境の 好循環を目指して

UIA/JIA ゴールデンキューブ賞
を通じた国際活動



建築と子どもワークショップの集合写真(2019年、ヘルシンキの子どもの建築学校 Arkki にて)



UIA ゴールデンキューブ賞の表彰式の様子(2017年、UIA ソウル大会)



建築と子どもワークショップのウェブサイト
(<https://www.architectureandchildren-uia.com>)

子どもや若者にむけた建築・都市環境の教育は、世界各地で多数実践され、公教育や民間教育のなかで成熟しつつあります。一方で、建造環境や教育システムの異なる国や地域の実践者の間では、方法論や課題を分かち合ったり、これから新しい教育を始めようとする実践者を支援する場が求められています。

建築と子どもワークショップの歩み

UIA にはこうした世界の実践者が集まる「建築と子どもワークショップ」があります。1999年のUIA北京大会で発足し、2002年のベルリン大会の頃にはガイドラインを作成して、年二回ほどの国際会議やセミナーを開催しながら、当該教育の普及や実践者支援に努めてきました。2019年には「UIA 子どもや若者のための建築教育憲章」を発行しました。

2011年の東京大会では実践者を顕彰する「UIA ゴールデンキューブ賞」を立ち上げ、3年に一度の大会ごとに世界から優れた教育実践を募集し総覧・表彰しています。JIA では東京大会から「JIA ゴールデンキューブ賞」を実施し、本部国際委員会の管轄、東海支部の継続的な運営のもと、実践者の交流や評価の場を形成しています。2014年には日本の応募作品がUIA ゴールデンキューブ賞の組織部門最優秀賞に輝きました。

実践者がつながり、分かち合い、誇りをもつ

建築と子どもワークショップはUIAを結節点とした広いネットワークです。

委員の出身地はすべてのUIAリージョンに渡りますが、ゲストとしては誰でも参加することができ、今では総勢40名近く、その背景にはもっと多くの人々がつながっています。共立女子大学で教鞭を取られた故稲葉武司先生のご尽力のもと、日本はワークショップの設立当初から深い関わりを持ってきました。先述のガイドラインやゴールデンキューブ賞を通じて新しい実践者が増え、実践者のネットワークが広がるたびにワークショップが大きくなるため、各リージョンのディレクターが中心となり地域ごとの教育普及や実践者支援をサポートしています。

また、ゴールデンキューブ賞はUIA大会で表彰されるため、建築家の世界的業績が讃えられる場と同じ場に、子どもや若者にむけた教育の実践者が登壇します。この場は実践者にとって励みになるだけでなく、世界の建築家たちと、建築の社会に対する役割を分かち合う場にもなっています。

子どもの学びがよりよい建造環境に返ってくる

世界の教育実践事例を見ると、「子どもに建築の楽しさや総合性を伝えるもの」と「建築を通じて子どもを取り巻く社会課題に取り

組むもの」に大別されるように思います。

前者には、ワークショップや学校への出前授業などを通じて、建築の知識や技能、教科との総合的なつながりを体験的に学んでもらい、未来を担う子どもの建築リテラシーを育成する実践が含まれます。NPO等が建築学校を運営し、放課後や休日に通ってもらう事例もあります。

後者には、子どもの貧困や、不登校、移民・難民の問題、環境や歴史遺産の破壊、そしてコロナ禍の子どもの孤立や学習環境の変化も含まれますが、現代の子どもを取り巻く社会課題を、建築や都市環境の文脈を用いて子どもと一緒に解決したいという実践が含まれます。たとえ子どもが直接建築を学ぶことがなかったとしても、あの時あの人が手を差し伸べてくれた、こんな地域活動をして自信がついたと、子どもの人間形成や子どもを取り巻く社会の充実が、時間をかけて良好な建造環境の形成に返ってくる可能性があります。

今後の展望は、社会貢献やボランティアの域を超え、子どもの学びと建造環境の好循環を生み出すこれからの〈職能〉として、建築を志す人のキャリアの一つとして、この分野の発展に尽力したいと思います。

田口 純子 (JIA 愛知)

UIA建築と子どもワークショップ
日本委員・アジアディレクター

